

函館港港湾脱炭素化推進計画の成案化について

素 案

（この欄は素案の本文が記載されていますが、この画像では空白です）



成 案

はじめに

本市においては、令和 2 年(2020 年)10 月に国が表明した 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050 年カーボンニュートラル」宣言を踏まえ、令和 5 年(2023 年)1 月に、地球温暖化対策のより効果的な取組みを推進するとともに、気候変動の影響による被害を回避・軽減することを目的に「第 2 次函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組んできました。

こうしたなか、国土交通省では、港湾が輸出入貨物の 99%以上が経由する国際サプライチェーンの拠点であり、多くの CO2 を排出する臨海部産業の拠点であることから、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や、水素・アンモニア等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート（以下「CNP」という。）の形成を通じて、荷主や船社から選ばれ、ESG 資金を呼び込む、競争力のある港湾を目指すとともに、臨海部産業の競争力強化や脱炭素社会の実現に貢献することを目指してきたところです。

こうしたことから、函館港においても CNP の形成を推進するため、港湾法の規定に基づき「函館港港湾脱炭素化推進協議会」を設置し、関係者間での協議を経て、法定計画である「函館港港湾脱炭素化推進計画」を新たに作成いたしました。

本計画では、官民一体となって、事業所や船舶・車両などの物流により生じる港湾区域内の温室効果ガス排出量削減に取り組むとともに、北海道と本州、日本海と太平洋を結ぶ交通の要衝に位置し、開港以来、貨物の取扱だけでなく、補給や造船修理などを目的に数多くの船舶が函館港に寄港していることを踏まえ、洋上風力発電をはじめとした GX^①関連産業の発展に繋がる港湾利用の促進や、環境性能で世界的に評価が高い「函館ブランド」の造船など、函館港の特徴を活かして国や北海道のカーボンニュートラルに貢献することといたしました。

今後は、本計画のもと、官民が連携することで、港湾を起点にさらなる脱炭素化の取組みを推進するとともに、国内外から選ばれる港を目指してまいります。

令和 8 年（2026 年）3 月

函館港港湾管理者
函館市長 大 泉 潤

函館港港湾脱炭素化推進計画の成案化について

素案

3-2. 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

函館港における港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業およびその実施主体を表 17 のとおり定める。

表 17：港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業および事業主体

期間	施設の名称 (事業名)	位置	規模	実施主体	実施期間	想定される 事業効果
中期	西防波堤藻場造成実証事業	本港地区	8,000 m ²	函館港港湾脱炭素化推進協議会	2025年度～	ブルーカーボンによるCO ₂ 吸収源や漁場などへの藻場造成の区域の拡大
	洋上風力発電設備建設用作業船(SEP船 ^{viii})母港化	港内	1隻	Japan Wind Farm Construction(株)	2026年度～	洋上風力発電設備建設推進に伴う再生可能エネルギー供給量の拡大
	船舶へのLNGバンカリング	未定	-	北海道ガス(株)	～2030年度	重油などの使用燃料転換に伴うCO ₂ 排出量の削減やLNG需要の増加
長期	環境負荷低減を実現したエコシップの開発・建造	弁天地区	-	函館どつく(株)	～2040年度	高い環境性能が評価されているばら積み運搬船などの
	ゼロエミッション船 ^{xiv} 等の開発・建造	弁天地区	-	函館どつく(株)	～2050年度	国内外への供給により、地球規模のCO ₂ 削減に貢献
	都市ガス本管延伸によるLNG供給範囲の拡大	未定	-	北海道ガス(株)	～2050年度	重油などの使用燃料転換に伴うCO ₂ 排出量の削減やLNG需要の増加



成案

3-2. 港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業

函館港における港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業およびその実施主体を表 17 のとおり定める。

表 17：港湾・臨海部の脱炭素化に貢献する事業および事業主体

期間	施設の名称 (事業名)	位置	規模	実施主体	実施期間	想定される 事業効果
中期	西防波堤藻場造成実証事業	本港地区	8,000 m ²	函館港港湾脱炭素化推進協議会	2025年度～	ブルーカーボンによるCO ₂ 吸収源や漁場などへの藻場造成の区域の拡大
	洋上風力発電設備建設用作業船(SEP船 ^{viii})母港化	港内	1隻	Japan Wind Farm Construction(株)	2027年度～	洋上風力発電設備建設推進に伴う再生可能エネルギー供給量の拡大
	船舶へのLNGバンカリング	未定	-	北海道ガス(株)	～2030年度	重油などの使用燃料転換に伴うCO ₂ 排出量の削減やLNG需要の増加
長期	環境負荷低減を実現したエコシップの開発・建造	弁天地区	-	函館どつく(株)	～2040年度	高い環境性能が評価されているばら積み運搬船などの
	ゼロエミッション船 ^{xiv} 等の開発・建造	弁天地区	-	函館どつく(株)	～2050年度	国内外への供給により、地球規模のCO ₂ 削減に貢献
	都市ガス本管延伸によるLNG供給範囲の拡大	未定	-	北海道ガス(株)	～2050年度	重油などの使用燃料転換に伴うCO ₂ 排出量の削減やLNG需要の増加

函館港港湾脱炭素化推進計画の成案化について

素案

参考2. 函館港港湾脱炭素化推進協議会

(1) 素案作成までの開催状況

開催項目	開催日時	開催場所	備考
第1回協議会 講演会 「函館港の港湾脱炭素化に向けて」	令和6年(2024年) 12月18日	函館市国際水産・海洋 総合研究センター	協議会設置 協議会共催 キックオフイベント
第2回協議会	令和7年(2025年) 5月21日	函館市役所	
講演会 「函館港 CNP シンポジウム」	令和7年(2025年) 6月27日	函館市国際水産・海洋 総合研究センター	協議会共催
第3回協議会	令和7年(2025年) 11月6日	函館市役所	



成案

参考2. 函館港港湾脱炭素化推進協議会

(1) 計画作成までの開催状況

開催項目	開催日時	開催場所	備考
第1回協議会 講演会 「函館港の港湾脱炭素化に向けて」	令和6年(2024年) 12月18日	函館市国際水産・海洋 総合研究センター	協議会設置 協議会共催 キックオフイベント
第2回協議会	令和7年(2025年) 5月21日	函館市役所	
講演会 「函館港 CNP シンポジウム」	令和7年(2025年) 6月27日	函館市国際水産・海洋 総合研究センター	協議会共催
第3回協議会	令和7年(2025年) 11月6日	函館市役所	
第4回協議会	令和8年(2026年) 3月13日	函館市役所	